

リバプール巡礼顛末記



ラピタ12月号新型ディスカバリー3でのスコットランド線路旅。これはランド・ローバー社の試乗会でイギリスに行ったときのもの。ディスカバリー3のインプレッションは1月号で下野康史さんが詳細なレポートをお届けしています。じつはこのとき、編集長大家と、カメラマン杉崎の間でスコットランドの帰りにどこで遊ぼうか、という話になった。

そして「イギリスならビートルズしかないだろう、うん」と一決、リバプールに行くことになったという次第。しかし

「なにいビートルズ？リバプールに行くだとお？」これを聞きつけたのが今回の試乗会の仕掛け人、ランド・ローバー・ジャパンの森川修さん(写真左)。じつはこの人。ランド・ローバー広報担当とは仮の姿で、とんでもないビートルズマニアだったのだ。さらに「ビートルズなら4人だろ、1人足らん」とわけのわからない理由で、鉄道少年からビートルズが原因でエレキ男になったラピタ・ウェブページ担当、大原一晃(写真右)も日本からやってきてしまった。

とんでも
ろ、1人
原因で
も日本か



クルマは森川さんが本社から借り出したレンジ・ローバーである。
さあ出発！、そのとき
「あの、相談だけどさ、リバプールの前にちょっと寄ってくんない？」
と杉崎
「どこ」
「ヨーク、鉄道博物館があるんだ。0系新幹線もあるんだよ」
「ナニ0系が？、それは行かねば」
というわけでロンドン→ヨーク→リバプール→ロンドンの大ドライブと相成
った。



ヨークの鉄道博物館でピカピカに整備された新幹線と対面してから、一路リバプールへ。

車内ではビートルズにまつわる青春時代の、ここに書けないようなイケない話の連発で盛り上がることしきり。

リバプールではカーナビ(イギリスのナビは地図上のクルマ位置が動く)でペニーレインを探し当て、このペニーレインの陸橋から列車の撮影に成功するという快挙も。そしてストロベリー・フィールズ門前では国外退去処分覚悟でウクレレで演奏する(なんでウクレレなんや?)という挙にも及んでしまった。



ビートルズの聖地を走った二日間、マージー川に沈む夕陽にレンジ・ローバーの美しかったこと。

道は快適だったけど、「ロング・アンド・ワインディング・ロード」がアタマにリフレインする夕焼けだった。

